

1 題材名 すてきにえがいてはがしとれ～一版多色はがし取り版画～

2 題材のねらい

音楽会文集の表紙として、はがし取り版画を一版多色で刷り上げる。彩色の効果を試しながら、表したいことがらについて感性を働かせながら豊かに追求することができる。

3 授業の構想

次の文章は、抽象形のダンボール素材「ダンボールブロック」を用いた工作の学習活動後の日記である。

今日、5、6時間目に、図工をしました。つり場を作るときに、上の方に作りたいと思いました。ダンボールの板にダンボールブロックをつけて、それから、作ったつり場をつけました。次が、ダンボールブロックの勉強がさいごだから、がんばってしたいです。 (児童A)

本学級の子どもたちは、児童Aのように、これまでの学習経験を元に、素材とじっくり向き合い試行錯誤を繰り返しながら、表したいことに向かって表現方法を工夫することができる。対話により他者の意見を聞き、自分の考えを確かめたり、新たな発想の手かかりを獲得したりしながら、楽しんで造形表現を追求しようとする姿を期待している。

本題材では、メディウムはがし刷りクラフトテープ版画に取り組む。3年生にとって思い通りに描ける線画がそのまま版になる簡易さがあり、何度も試しながら表し方を工夫できるよさがある。また、モノプリントだけでなく版画の出来映えを生かして一版多色刷りを楽しむこともできる。下絵に描く線の効果や版画が刷り上がる瞬間を友だちと楽しみながら、友だちに意見を求めたり、自分自身の考えと向き合ったりするために、願いをもって主体的な対話が行われることが期待できる。

このような子どもの姿を求めて、次の点を大切に指導していきたい。

ドライポイント（版種）や彩色の効果のよさに触れるとともに、刷り上がりの様子を視点にした対話を基軸において、子どもの必要感に応じた「掘り下げる」「提案する」など教師のはたらきかけを行うようにする。

単色の版画を多色刷りにするためには、黒単色の版の上にジェルメディウムで層を作りガラス絵のように彩色する必要がある。子どもにとって、着色を施した版を版画用紙に写し取った時にどのように仕上がるかは試してみないとわからない側面がある。水彩絵の具で着色した場合はにじみやぼかしの効果も現れるため、絵画表現に近い作品に仕上がることも予想される。教師は、子どもが刷り上がりの効果を確かめたり、友だちと彩色についての意見を交換したりできる機会を保障する。版の表現意図に照らしてどのように彩色を施すのかについて教師が問いかけ、必要に応じて提案を行うことで、子ども達の対話的な学びを引き出し、意見の交換が行われるようにする。

版画を刷り上げる作業では、友だちと協力して取り組むことで、互いの作品に関心を持ち、造形的な見方や考え方が影響し合い、よりよい造形表現への追求がなされることを期待する。

4 展開計画（全9時間 本時7／9）

○はがしとり版画の仕組みを知り，表現テーマに基づいて下絵を構想し描く。（1・2・3校時）

○版画の刷り方を学び，モノプリントで版画を刷り上げる。（4・5・6校時）

○**多色刷りの方法を学び，彩色を工夫して多色版画を刷り上げる。（7・8校時）**

○作品を展示し鑑賞する。（9校時）

5 本時の学習

(1) ねらい

多色版画の刷り上がりについて，彩色の効果の視点で確かめ，友だちの気付きのよさを取り入れながら，より豊かな彩色表現をすることができる。

(2) 展開

主な学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 前時を振り返り，学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生のお試しで，白黒のリンゴの絵に色をつけたらきれいになった。赤で塗るだけでなく少し色を変えたりしたらもっとよくなると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 版に彩色を施すこと確認し，活動の方針を明らかにしながら学習のめあてにつなぐ。
<p>版画をカラーにして音楽会を楽しく美しく表そう！</p>	
<p>2. 自分や友だちの作品の刷り上がりを見て，思いや願いと比較して検証し，良い点を確認したり，見直したりして，彩色の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心のところだけでなく，周りもぬった方がいかもしれないから，2枚目ではやってみる。 目のところに黒をぬったら，逆に下書きの絵が見えなくなったからやめた方がいいな。 服のところに友だちが模様を描いていてきれいだったからまねをしてみよう。 一緒に刷っていた友だちが「きれいにできたね。」と言ってくれたからうれしかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが絵画での彩色経験を版画に生かせるように，混色のよさや丁寧に塗り分けることなどの視点を提案する。 版に対して裏彩色を施すことについては，技能的な支援を積極的に行う。 子どもが彩色の効果を生かせるように，子どもの願いに応じて，表現についての考えや彩色の意図を問い，掘り下げる。 子どもの考えや気付きを拾い上げ，周囲の友だちと考えをつなぐようにする。
<p>【評価の観点(知識・技能)】</p> <p>刷り上がりの効果から彩色方法を考え，絵画表現での経験を生かしながら，よりよい彩色の仕方を見出して彩色を施すことができる。 (評価方法：作品・発言)</p>	
<p>3. 本時を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 彫った最初の絵が消えないように色をぬると，刷ったときに作品がすてきになったから，もう一度仕上げをしたい。 色ぬりの順番もけっこう大事だから，今度は，細かいところから先にぬるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 構想したことや獲得した気付きを，作品に反映することができたかということについて，表し方の工夫や取り組みのよさに視点を置いて振り返るようにする。